【研究区分：地域課題解決研究】

研究テーマ：「清流セラピー」効果についての研究 ～企業・観光客向けのサービス事業として成立するための科学的効果の検証～	
研究代表者：保健福祉学部 保健福祉学科 理学療法学コース 教授 金井秀作	連絡先：kanai@pu-hiroshima.ac.jp
共同研究者：保健福祉学部 保健福祉学科 理学療法学コース 教授 田中聡 助教 高宮尚美 助教 岡村和典	

【研究概要】

広島県湯来町における“清流セラピー”が企業・観光客向けのサービス事業として整理するための現状調査とその効果検証からの“清流セラピー”の実施体制のあり方について検証した。コロナ禍で客観的評価に関わる検証は不十分な結果となったが現行の“清流セラピー”の内容については学生の仮想体験等から主効果を期待する項目と体験内容に乖離があるなどいくつか課題を発見することができた。

【研究内容・成果】

広島県湯来町における“清流セラピー”が企業・観光客向けのサービス事業として整理するための現状調査とその効果検証からの“清流セラピー”の実施体制のあり方について検証することを主目的に本研究を計画実施した。

現状調査については湯来観光地域づくり公社による清流セラピーの体験と湯来町の環境・人材の視察を当初予定していたがコロナ禍により第三者評価としての海浜セラピー体験者である大学生の現地参画は叶わなかった。そこで現地視察による検証は密を避けるため主担教員と現地代表者の小人数とし，現時点では“シャワークライミング”として実施している清流セラピーおよび湯来町の課題について整理を行い，まとめる形でプレゼンデータ（図１）を作成した。そこでオンライン上で大学生と情報共有を行い、現状についての課題をアンケート調査にて検証した。

図１　清流セラピー（仮）紹介プレゼン

その結果，大学生にとって湯来町の観光地としての認知度は極めて低く，一部の学生においては温泉地（湯来温泉）としてよりも有名漫画（スラムダンク）のシーンで使用された温泉宿の印象がある程度であった。詳細は割愛するが，実際は自然を用いた体験交流の場としてかなり整備が進められており，大学生にとってもレジャーとしての魅力が多い場所でもあるにも関わらず周知が不十分であることが示唆された。また，運営側が目指す“清流セラピー”の効果は「健康増進」であるが，手本となる先行の“海浜セラピー”では，健康増進の手法としてリラクゼーシとョン（癒し）を重視しており，大学生もそのように認識していた。しかし，現行の“清流セラピー”はシャワークライミングの要素が強すぎるため，大学生も違和感を感じる結果となった（図２）。この結果は今後の“清流セラピー”のあり方については大き

なヒントになると思われる。

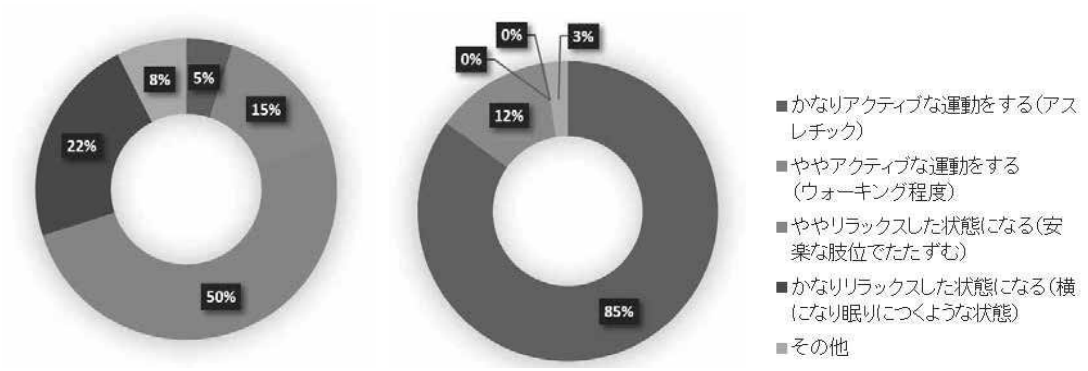

図２　清流セラピー（仮）模擬体験の前後での印象

当初予定していた実体験による運動負荷（動的）およびリラクゼーション効果（静的）についてはコロナ禍により実験を実施することはできなかった。前述のように大学生を被験者とする現地派遣がかなわないため、疑似環境（キャンパス内）で清流セラピーを想定した計測方法の検証の結果、運動負荷には加速度計による体動評価、そしてリラクゼーション効果については心理テストおよび唾液アミラーゼ計測が適当であると判断された。

今後は現地での実体験評価を行うとともに安全性を配慮した清流セラピーのコース選定と前述した視点による動的および静的評価について実施する必要がある。清流セラピー効果の客観的データ取得により，「海浜セラピー」と同等の可能性（価値）があると研究者側および発案者側（湯来観光地域づくり公社）が判断できた場合，観光資源としての活用が期待できるだろう。